

限界状態設計法の操作性や計算機能が大幅にUP！

(1) 鉄道構造物設計標準・同解説コンクリート構造物（平成16年版）の対応

< 曲げひび割れ幅の計算式の修正 >

ひび割れ幅の計算方法は、コンクリート標準示方書の計算式に係数 k_4 が追加された式となります。

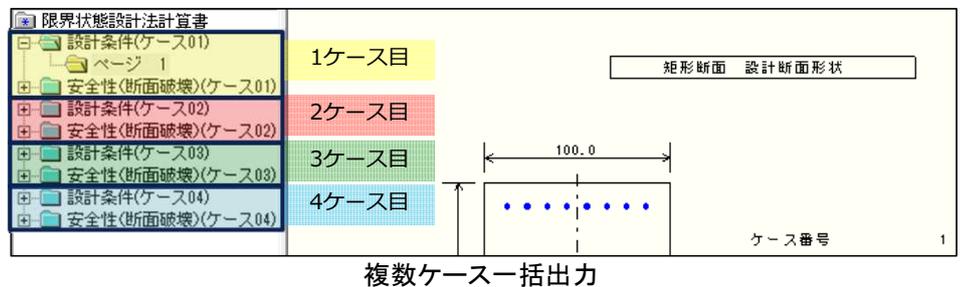
< 塩化物イオン濃度による鋼材腐食の計算式の修正 >

表面イオン濃度の時間変化の有無の双方の検討が可能です。

(2) 操作性の大幅な改善、耐震性の検討に対応

① 詳細な計算書の複数ケース一括出力

これまでは一度に1ケースしか出力できなかった詳細な計算書が、選択した複数のケースについてケースごとにまとめて出力できるようになりました。



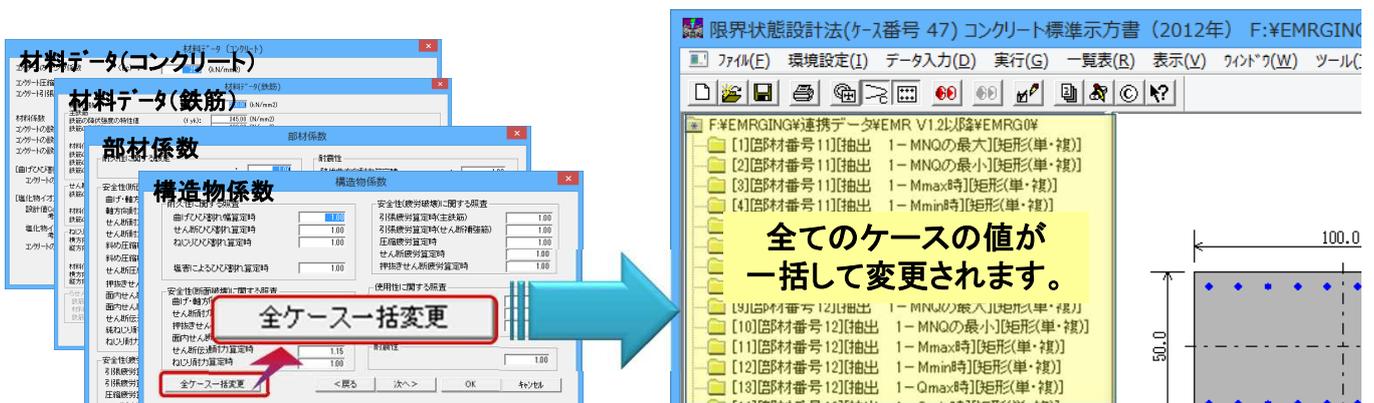
② 限界状態設計法で耐震性の検討を追加

耐震性の検討について、構造解析により求められた発生作用に対し、耐震性能により定められた任意の限界状態を超えているかを判定します。

2012年制定コンクリート標準示方書の破壊モードの判定にも対応しています。

③ 入力値の全ケース一括変更

複数ケースについて、画面ごとに一括で設定値を変更できるようになりました。個別ケース設定時の入力画面を呼び出し「全ケース一括変更」ボタンを押下すると、全てのケースにその入力画面の値を設定することが可能です。



(3) 許容応力度法の計算機能強化

① 許容応力度の割り増しを考慮可能に

許容応力度法の照査で、応力度の割り増しが考慮可能になりました。入力された許容応力度の基本値×割り増し係数と発生応力度を比較して照査します。